佳作 厳しさがくれた答え

デヴィ　フィトリア　ヌルサリザ
DEVI FITRIA NURHALIZA
国　　籍　インドネシア
職　　種　電子機器組立て
実習実施者　旭電器工業株式会社
監 理 団 体　ELC 事業協同組合

私はインドネシアで一人っ子として育ちました。兄弟や姉妹がいなかったため、家の中はいつも静かでした。悩みや不安があっても、話せる相手はいませんでした。小学生のころ、学校でつらいことがあっても、「我慢しなさい」と言われ、自分の気持ちを言葉にできませんでした。一人で考え、一人で耐える毎日でした。

両親はとても厳しく、外出はあまり許されませんでした。友達の誕生日会にさそわれても家に残り、窓から帰っていく友達を見送ったことがあります。また、友達から家族旅行の話を聞くたびに、どこにも行けない自分と比べて寂しい気持ちになりました。一人っ子の生活は孤独でしたが、その中で物事を深く考える性格になったと思います。

中学校から高校まで、放課後はほとんど家で過ごしました。雨の日に学校の行事で少し帰りが遅くなっただけでも、理由を聞かれる前に叱られたことがあります。私の世界は家と学校だけでした。だからこそ、早く大人になりたいと強く思っていました。

しかし成長するにつれ、将来のことで悩むようになりました。大学、仕事、結婚。周りの友達が自分の道を決めていく中で、すべてを一人で選ばなければならない重さを感じていました。そんなとき、日本という国を知りました。新しい環境で自分を試したいと思い技能実習生として日本で働くことを決めました。家族は最初反対しましたが、話し合いの末、私の気持ちを理解してくれました。

日本に来てから、製造の仕事は想像以上に大変でした。作業の速さ、日本語での指示、細かい確認。失敗して作業を止めてしまったこともあります。以前の私は、分からないことがあっても迷惑をかけるのが怖く、一人で何とかしようとしていました。

しかしある日、作業の手順が分からず、思い切って先輩に質問しました。先輩は嫌な顔をせず、仕事の手を止めて丁寧に教えてくれました。そして「聞いてくれてよかった」と言ってくれました。その言葉から、助けを求めることは弱さではなく、責任ある行動だと気づきました。

また、体調をくずして早退した日、上司が薬を用意し、「無理しないで」と声をかけてくれました。そのとき、日本では仕事だけでなく、人としても大切にされていると感じました。一人で抱えこむことに慣れていた私にとって、そのやさしさは心に残りました。

振り返ると、何でも一人で抱えこみ、弱さを見せないようにしてきた一人っ子としての日々があったからこそ、今の私は人のやさしさに気づき、それを受け止められるようになったのだと思います。あの厳しい時間は、世界へ一歩進むための準備だったと、今は胸を張って言えます。